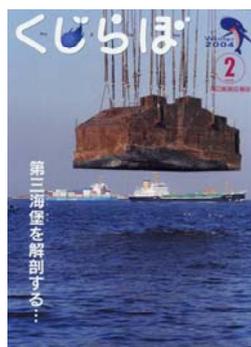
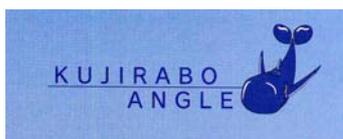


005 Cacco

<p>塔の断章</p>	<p>乾くるみ 講談社文庫</p>	<p>「塔の序章」から「塔の解説」まで四つの章からなる本格ミステリー。最初の章で「さて犯人は誰でしょう？」という作者の挑戦が始まります。作者自身による謎解き「塔の解説」には「読者を間違った推理に誘導した」とあり、そういう罠に見事にはまる楽しみもあります。というより読者を騙すためだけに書かれたと言っていいかも。作者と読者の関係がとても密なミステリー。作者渾身のトリックを看破するのは本格ミステリーの醍醐味です。</p>	<p>☆☆☆☆</p>
<p>小生物語</p>	<p>乙一 幻冬舎</p>	<p>TICAさんに乙一作品は全部貸してもらっているの、たまには一冊くらい自分で買って貸さなければ！ときばって買ってしまいました。自身のHPに連載していた日記をまとめたもの。冒頭に「買ったらソンするよ」という作者の注意書きあり。引越し時にソファに座って付いてきた青白い顔の少年はなんだかおかしかった。吉田戦車さん描くところのキャラをしっかり想像してました。ミスチル話が出てくるところもとってもうれしい。TICAさん推薦の乙一、最初はイマイチだったけど今やエッセイも読めるくらい好きです。</p>	<p>☆☆☆TICAさんに感謝感謝。</p>
<p>僕の殺人</p>	<p>太田忠司 講談社文庫</p>	<p>「僕はこの事件の犠牲者であり加害者であり探偵であり証人であり、またトリックであった」という壮大な言葉で始まる割りに、想定内の範囲内。犯人探しである以上、この人でしかありえないという犯人を作らなければ。過去の事件に於けるトリックのあまりの古さにびっくり。</p>	<p>☆☆★</p>
<p>迷宮廻行</p>	<p>貫井徳郎 新潮文庫</p>	<p>失業中の男の妻がある日突然置手紙を残し失踪する。男は数少ない糸を手繰り寄せ真相に近づいていく。最初は軽いタッチでユーモラスな感もある話が、友人の死をきっかけに重い話に変貌する。ラストがこれじゃなんのために熱心に妻を探したのかわからない。長編小説を齟齬なく書くのってきつととても難しいんだろう。</p>	<p>☆☆</p>

龍宮	川上弘美 文藝春秋	「蛇を踏む」で芥川賞受賞。グリコちゃんT I C Aさんの好きな「先生の鞆」の作者。想像していた雰囲気とは違う奇妙な短編連作で、どれも「人でないもの」を主役に置いています。昔は蛸だった男、小柄な霊能者イト、アブラゲが好きでケーンと鳴く93才の正太、台所の荒神様と話す女、地下に潜って暮らすうごろもちの夫婦、七代前の先祖にひとめぼれする女、海から上がって陸で暮らす海馬。読みすすむうちにだんだん面白くなった。視覚的にしても面白そうな内容。つげ義春さんに漫画化してほしい。	☆☆☆☆
FLY、DAD DY、FLAY	金城一紀 講談社	家族を愛し平穏に暮らしていた中年サラリーマンに突然降りかかった凶暴な出来事。家族のため、自分のために冴えないサラリーマンが落ちこぼれ高校生の協力で立ち上がる。この夏映画が公開される。変化するサラリーマン・鈴木一役は堤真一、鍛え上げた体と冷静な頭脳を持つ高校生・朴舜臣役は岡田准一。面白そう。	☆☆☆☆
	作画・ 秋童学 小学館	小説の漫画版。 絵は下手だけど、話の面白さで読めます。もともと原作が漫画的、映画的であるのかも。朴舜臣のイメージが映画と違いすぎるのが残念。	☆☆☆
エハイク エハイク2 (悪い笛)	吉田戦車 フリー スタイル	 <p>y u k o 師匠の指導のもと、日夜習作に励んでいるうさお。今年のお誕生日には「俳句の腕があがるように」の願いを込めて、鬼才吉田戦車の俳句本をプレゼント。がんばれ!</p> 	☆☆☆☆

くじらぼ



平成 12 年 12 月から第三海堡撤去事業がスタートしたのは新聞紙上などで知っていましたが、その後引き上げられた建造物がどうなったのかは気になるどころでした。先日図書館で東京湾口航路事務所発行の広報誌くじらぼを発見。追浜展示場に展示されていることを知りました。すぐにでも見学に行きたいところですが、10名以上集まらないと見せてもらえないとか。交友関係ゴクセマの身としては少々ホネがおれる人数です。だいたいどれだけの人が「見たい！」って思うんでしょ。「六本木ヒルズに食事に行こう」なんてのと訳が違う・・・。

下の写真がその展示物です。赤枠で囲った砲台などはこれから順次引き上げ作業が行われるようで、HPをまめにチェックしていれば引き上げ作業に立ち会うチャンスもあるかも。

長い間水の中に埋没していた、歴史をまとった建造物とその姿を現す瞬間。できたらこの目で見てみたい。

●砲台は、火砲（大砲）、白砲（砲座）、射撃庫、観測所、電灯所等から構成されます。火砲は砲座砲床コンクリートの上に12本のボルトで補正に据え付けられており、その前方には架橋状のコンクリートで壁を設けてありました。火砲の横には砲座庫（砲座庫風車）があり、内部の構造は、天井が半円形アーチで、扉壁から天井まで壁を貫通するコンクリートの一体構造となっていました。また砲座庫を出し入れしたと見られる小窓が確認され、そこには砲座庫を兼ねない為の真鍮の扉壁が丁寧に仕上げられていました。

●第三海堡尾端中央部の飲料水などのろ過施設を兼ね備えた大型兵舎は、尾端側に地上へ通じる通路がありました。兵舎の部分天井は半円形のアーチ状で、入口側面にはイギリス風のレンガが積まれており、奥に歩道の打り取りのための内容がさつ込んでいました。また、通路部分では、中央水平部分の地下に空間があり、砂が詰めてありました。

●第三海堡頭部の探照灯格納庫と通路部分は、左右対称の構造で、中央部分海側には探照灯を兼ね付ける白壁があり、さらに探照灯を台車へ運ぶためのレールがありました。そして、中央部分を挟んだ左右部分には、地上へあがるための階段がありました。

●砲台用は、砲台1個につき1台の探照灯（探照灯）が観測所や砲台に近くから照射されると想定されることから、なるべく前方の位置に設置されていた。第三海堡には、頭部2箇所に2箇所、尾端部の中央に1箇所、尾端部に2箇所の計5箇所に設置されていたと見られる。

●観測所の探照灯は地下に格納し、有車の際に昇降機で引き上げて使用していましたが、第三海堡では、電灯を台車に乗せ、そのまま、各電灯所に移動、手搬するためのレールも確認されています。

●復元図/第三海堡の設計図は現在までに発見されていません。唯一、存在する仮設計図や関東大震災直後に撮影された航空写真、撤去工事で得られた情報を元に、復元図面を描き起しコンピュータグラフィックス (CG) で第三海堡が復元されています。

●築基において、水は機関冷却用・飲料・炊事用・消火用などに重要なものでした。第三海堡では、兵舎のアーチ外側の排水処理も兼ね、数箇所の土盛りしたろ過池に雨水をしん過させて砂や砂利を通した後、脚壁の基礎の上に設けた配水管を通して貯水槽に導き、飲料水・雑用水としていたようです。

ぜひ一緒に追浜展示場見学に行きたいって方は、
うさおまたはC a c c oまで連絡くださいね~(*^_^*)